

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

<p>研究課題 (承認番号)</p>	<p>逆漏斗型中枢ネックを有する腹部大動脈瘤に対するAFXステントグラフトシステムの有用性を検討する多施設後ろ向き観察研究 (承認番号 2020012)</p>
<p>担当科及び研究責任者</p>	<p>血管外科 科長 墨 誠</p>
<p>利用目的</p>	<p>AFX ステントグラフトシステムは、その他のステントグラフト違い、ステントがグラフト(人工血管)の内側に存在する内骨格構造をとる。ステントとグラフトは両端のみ固定されているため、血圧を受けると、ステントグラフト内外の圧較差により、グラフトが独立して膨らむ特徴を持っている。これにより、AFXはその他のステントグラフトよりも逆漏斗型の症例に対する有効性ない。 そこで多施設で、逆漏斗型の中枢ネックを有する腹部大動脈瘤に使用されたAFXステントグラフトの症例を集めて、その成績を後ろ向きに検討し、有用性を検討したい。</p>
<p>研究の対象者及び対象期間</p>	<p>2016年1月1日から2019年8月31日までで、該当研究機関で施行された逆漏斗型の中枢ネックを有する腹部大動脈瘤に対して、AFXステントグラフトを用いた治療した20歳以上の患者。</p>
<p>研究の方法</p>	<p>対象となる患者さんの、術前または治療開始前の状態、基礎疾患、手術内容、術後経過などを診療録、検査データ、画像データの記録を参考に調査します。従って、患者さんに新たなご負担をおかけすることはありません。本研究では、CT画像を客観的に解析するために、本研究とは関わり合いのない第3者となる「奈良県立医科大学中央放射線部」解析を依頼します。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>埼玉県立循環器呼吸器病センター 048-536-9900 (代)</p>
<p>備考</p>	<p>主研究機関 東京都済生会中央病院 心臓血管外科</p>